

京都のまちは“不便益”で応えてくれます



京都大学デザイン学
リーディング大学院 特定教授

川上 浩司 さん

(Kawakami Hiroshi)
専門はシステム工学
不便益システム研究所代表

つつい便利なものを求めるのが現代人。しかし、不便なことの価値を見逃して良いのか？ 不便ならではの益である「不便益」をライフワークとする京都大学デザイン学の川上浩司さんにお話をお伺いしました。(9/10取材)



川上さんコメント付
不便益を具現化できる
おすすめ本『ほんもののおみやげ』
京都きっての老舗 18 軒を紹介。

京都観光をデザインしよう！

京都大学の「デザイン学」におけるデザイン概念は単に意匠を意味するものにとどまりません。あるルールをつくることによって人の動きが変わるように、人の動きをどのように描き構築していくかを考えることもデザインの領域と考えます。日頃から不便益にこだわっている僕は、宿泊や交通などがバックになった観光ツアーより、面倒だけれども自分で全てを手配した出張旅行の方がよく覚えている自らの実体験も踏まえて、「不便だからこそ益のある京都観光をデザインしよう！」をテーマにした演習を行いました。

学生たちがまとめた幾つかのデザイン案の中で、「目的地まで右折してはいけないツアー」を実際に実施してみました。これは、道路が東西と南北で直行する「碁盤目のまち」京都ならではの試みで、京都の市街地では左折を3回繰り返すと右折したことと同じになるので、遠回りですが必ず目的地には行けるのです。このツアーでは効率は求めてはいないはずなのですが、なぜか、みんな一番近い道を選んで左折します。その結果、一般のツアーでは通らない細い路地を歩くことになり、その道中で「こんなところに京町家が!」「この石は何?」というような思いもかけない小さな驚きを楽しみました。これも千年の都である京都ならではの、長い歴史の間に至るところに色々なものが埋め込まれていて、それが目に見えて発掘できるのです。隅々まで京都のまちを感じることに、やっとたどり着いたという感動も合わせて、「右折してはいけない」という不便な縛りが、プロセスをも味わえる本来の京都ツアーになったのではという「不便益」を実感しました。

今だけこだけ僕らだけ

京都には不便益がたくさんひそんでいます。「いつでもどこでも誰とでも」という、技術革新に伴う最近の流行とは逆で「今だけこだけ僕らだけ」という視点で京都観光を楽しんでみてください。たとえば、真夏の鞍馬で食べるキュウリは、鞍馬の清流で冷やされたキュウリだからこそ価値があるし、そしておいしいのです。そこに行った人

だけしか味わえません。お土産にしても、新幹線の乗り際に土産物屋で買うのは便利ですが、誰かのためにわざわざ本店へ足を運ぶという手間をかけることが本当の意味でのお土産でしょう。お土産の品物だけでなく、そのお店の佇まいや主のおもてなし、また行き帰りの出来事、そういったものの全てが土産話としてお裾分けできるのですから。道中でのアクシデントが笑い話となることもあるでしょう。このように不便益の捉え方が広まれば、ものごとの捉え方や発想も前向きになり、世の中はもっと豊かになると思います。

不便益はノスタルジーから生まれるものではありません

音楽も写真もデジタル化されて久しくなりましたが、最近、レコードやフィルムプリントが、特に若い世代に人気を集めています。写真は元々思い出を記録したり、保つものでしたが、スマホやデジカメのように枚数に気兼ねなくいくらでも撮れるとなると、思い入れも薄らぎます。フィルムの場合は、27枚、36枚など枚数が限定されることから、撮影する前に何を残したいかを慎重に考えます。そうしたことが後で記憶に残り、迷ってシャッターを押したことや、少々ブレていてもその原因さえも思い出となるのです。現像して初めて出来栄がわかるという点でも手間がかかりますし、これも不便益といえます。生まれた時からデジタルしかなかった若者が、アナログに魅力を感じていることは懐かしさからではないでしょう。むしろ、新しさを感じているのです。不便益は決してノスタルジーを求めるものではありません。

僕が代表を務める不便益システム研究所では、これまでの効率化や自動化に変わる新しいデザインの指針を求めてたくさんの「不便益」を募っています。みなさんも「左京で左折オンリーツアー」「一度通った道は歩かない一筆書きツアー」など、京都観光をデザインし、実践してください。そして、「不便で良かった京都」の魅力をどしどしお寄せください。



別館
「朝がゆ」
午前8時～午前11時
「松花堂弁当」
正午～午後4時

ご予約をお待ちしております

電話 〇七五(七七二)四一一六(代)
FAX 〇七五(七七二)八二六二
京・南禅寺畔



懐石料理

<http://www.hyotei.co.jp>